大阪市立大学 OSAKA CITY UNIVERSITY　地方独立行政法人 大阪市博物館機構 Administrative Agency for Osaka City Museums　一般財団法人 大阪市文化財協会 Osaka City Cultural Properties Association

プレスリリース

大阪科学・大学記者クラブ　御中

2020 年 12 月 1 日
大 阪 市 立 大 学
大阪市博物館機構
大阪市文化財協会

大阪市立大学×大阪市博物館機構×大阪市文化財協会
包括連携協定企画

博学連携シンポジウム「徳川大坂城 400 年」

大阪市立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会は、2021 年 1 月 24 日（日）に、博学連携シンポジウム「徳川大坂城 400 年」を開催します。

大坂夏の陣で豊臣大坂城が焼滅した後、徳川秀忠が徳川大坂城の築造を始めたのが元和6年（1620年）でした。本シンポジウムは、築造開始から400年になる徳川大坂城について、最新の研究を紹介するとともに、その築造の意義を多面的に明らかにすることを目的としています。地質調査や発掘調査など、地道ながらも新しい視角からなされている研究成果についても紹介していきます。

ぜひ皆さまに広くご周知いただきますようお願いします。

●日　　時：　2021 年 1 月 24 日（日）10:20～16:45（受付 9:40 より）
●場　　所：　大阪歴史博物館 4 階 講堂（大阪府大阪市中央区大手前 4 丁目 1-32）
●対　　象：　どなたでも
●定　　員：　100 名（事前申込要・申込多数の場合は抽選）
●プログラム：

10:20-10:30 **開会あいさつ**

10:30-15:40 **第1部** 講演会　※11:50-12:50 お昼休憩

◇上町台地の地盤と大坂城本丸地区盛土の特徴
三田村 宗樹（大阪市立大学大学院理学研究科教授）

◇徳川大坂城の縄張りを読み解く
中井 均（滋賀県立大学人間文化学部教授）

◇発掘調査からわかる石垣修理の歴史
櫻田 小百合（大阪市教育委員会文化財保護課学芸員）

◇徳川大坂城の作事と大工頭・中井正侶
谷 直樹（大阪くらしの今昔館館長）

◇徳川政権成立史における「徳川再築大坂城」
宮本 裕次（大坂城天守閣研究副主幹）

◇徳川大坂城の普請と大坂町人
大澤 研一（大阪歴史博物館館長）

15:50-16:40 **第2部 ディスカッション**

◇徳川大坂城の歴史的意義は何か。これからの研究の課題は？

16:40-16:45 **閉会あいさつ**

●参　加　費：無料
●応 募 期 間：12 月 1 日（火）～12 月 25 日（金）
●申 込 方 法：以下の方法でお申込みください。

【Web 申し込み】

大阪市立大学 Web サイト https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/openlectures/view/412

※『osaka-cu.ac.jp』のドメインからのメールを受信できるよう設定をお願いいたします。

【往復はがき申し込み】

①住所 ②氏名（ふりがな） ③連絡先電話番号を記入し、返信面に返信先住所・宛名をご記入の上、下記に送付してください。※当日消印有効

≪申込先≫ 〒558-8585 大阪市住吉区杉本 3-3-138
大阪市立大学 地域連携センター 「徳川大坂城 400 年」係

※定員を超えた場合は抽選により当選者を決定。抽選結果はメールまたは返信用はがきに**2021 年1月 15 日(金)までに**通知します。
※Web 申込み1回につき1名様、はがき1通につき1名様のみのお申込みとなります。

●そ の 他:

本講座は、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて開催いたします。
また、感染拡大の状況により、オンライン開催などへの変更または中止となる可能性があります。

【本件に関するお問合せ先】
大阪市立大学 大学運営部 社会連携課 (担当:井上・松田)
TEL: 06-6605-3504 E-mail:kouza-shidai@ado.osaka-cu.ac.jp

大阪市立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会　包括連携協定企画

博学連携シンポジウム

徳川大坂城400年

日　時　令和3年（2021年）1月24日（日）　10時20分～16時45分　受付9時40分より

会　場　大阪歴史博物館 4階 講堂

大阪市中央区大手前4-1-32
（最寄駅）Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目駅」②号・⑨号出口
大阪シティバス「馬場町」バス停前

参加費　無 料　　**定　員**　100 名
（事前申込要/申込多数の場合は、抽選）

対　象　どなたでも

参加申込方法
▶Web 申込み　大阪市立大学ホームページ
https://www.connect.osaka-cu.ac.jp/openlectures/view/412
▶往復はがき　①住所、②氏名（ふりがな）、③連絡先電話番号を記入し、返信面に返信先住所・宛名を記入の上、下記宛先までお申し込みください。　※当日消印有効
Web申込み1回につき1名様、はがき1通につき1名様のお申込みとなります。

申　込　先　〒558-8585　大阪市住吉区杉本 3-3-138
大阪市立大学地域連携センター「徳川大坂城400年」係

問い合わせ先　TEL 06-6605-3504

応 募 期 間　令和2年12月1日（火）～ 12月25日（金）
※必ず上記の応募期間内にご応募ください。
※受講可否の結果は、応募期間終了後 令和3年1月15日（金）までに通知いたします。
※ご応募時に記入いただきました個人情報は、申込後の事務連絡、大阪市立大学公開講座等のご案内に使用します。
利用目的以外には一切使用いたしません。

主　催　大阪市立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会

※本講座は、新型コロナウイルス感染症防止対策を講じて開催いたします。また、新型コロナウイルス感染拡大の状況により、オンライン開催に変更または中止となる可能性があります。

＜関連展示＞ 大阪歴史博物館 常設展示「徳川大坂城400年ーなにわの人々は錦城をどうみたかー」

徳川大坂城は、都市の中でどのような意味を持ったのか。考古遺物と文献資料でご紹介します。

主　　催　大阪歴史博物館　／　会　　場　大阪歴史博物館 9階 常設展示室
会　　期　令和2年12月9日（水）～令和3年2月15日（月）　※火曜日休館、12月28日（月）～1月4日（月）は休館
開館時間　9時30分～17時　※12月11日（金）は20時まで開館　※入館は閉館の30分前まで
観 覧 料　大人600円、高大生400円　※中学生以下、大阪市内在住の65歳以上の方（要証明書提示）、障がい者手帳等をお持ちの方（介護者1名を含む）は無料

大阪市立大学・大阪市博物館機構・大阪市文化財協会　包括連携協定企画

博学連携シンポジウム

徳川大坂城400年

令和３年（2021年）1月24日（日）

10時20分～16時45分　受付9時40分より

大阪歴史博物館　4階 講堂

徳川大坂城は、大坂夏の陣で焼滅した豊臣大坂城の真上に造営された。徳川秀忠がこの徳川大坂城の築造をはじめたのが元和６年（1620年）であった。徳川大坂城は、巨大な天守や壮麗な御殿、巨石によって構成される枡形や高石垣などを特長とし、日本の城郭の集大成であった。また築造工事そのものが、新しい統治体制の構築、大坂城下町支配につながる重要政策でもあった。
本シンポジウムは、徳川大坂城についての最新の研究を紹介するとともに、その築造の意義を多面的に明らかにすることを目的とする。地質調査や発掘調査など、地道ながらも新しい視角からなされている研究成果についても紹介したい。

開会あいさつ　10時20分～10時30分

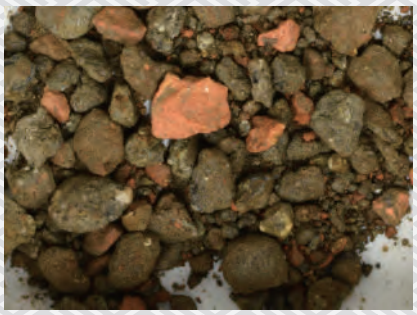
第１部　講演会　10時30分～15時40分

※お昼休憩：11時50分～12時50分（会場内でお食事はできませんのでご了承ください。）

上町台地の地盤と大坂城本丸地区盛土の特徴

三田村（みたむら） 宗樹（むねき）（大阪市立大学大学院理学研究科教授）

大坂城は上町台地の北端に位置し、自然地形を大きく改変して構築されている。城郭を構成するためには平坦地や掘割が必要となり、切り盛り造成が行われてきた。本講演では、上町台地の地盤構成とその造成の状況から、豊臣・徳川の盛土状況を紹介する。



徳川期の盛土最下部（地表下7.5m、赤褐色の焼けた瓦を含む）

徳川大坂城の縄張りを読み解く

中井（なかい）　均（ひとし）（滋賀県立大学人間文化学部教授）

これまでの城郭史からの徳川大坂城研究は、巨大な石垣や建物に集中し、縄張り（平面構造）が検討されることはほとんどなかった。実際には枡形だけではなく、石墨を曲輪内に設けて遮断線とするなど注目すべき構造となっている。徳川大坂城の縄張りを詳細に分析したい。

大坂城仕切石墨

発掘調査からわかる石垣修理の歴史

櫻田（さくらだ） 小百合（さゆり）（大阪市教育委員会文化財保護課学芸員）

雁木（がんぎ）の解体修理に伴う発掘調査では、雁木の構築状況や修理の痕跡を確認することができる。徳川大坂城の石垣といえば高石垣の構築技術などが注目されるが、現在までその姿をとどめている背景には、石垣の修理・維持管理の歴史があることを紹介したい。

本丸埋門東雁木修理

徳川大坂城の作事と大工頭・中井正侶（まさとも）

谷（たに）　直樹（なおき）（大阪くらしの今昔館館長）

徳川大坂城の建物は大工頭・中井家２代・正侶と配下の棟梁衆の作品で、中井家が手掛けた最後の城郭作事である。天守・御殿・櫓・門などの設計技術・意匠を、中井家一門が関与した他の城郭と比較検討することで、徳川大坂城の建築史的な位置づけを考えたい。

本丸東側諸櫓（幕末大坂城湿板写真の内、大阪城天守閣蔵）

徳川政権成立史における「徳川再築大坂城」

宮本（みやもと） 裕次（ゆうじ）（大阪城天守閣研究副主幹）

江戸幕府の全国政権としての特徴は、大坂城のあり方に注目することで見えてくる。初期徳川政権による政策の中に大坂城再築事業を位置づけ、職制や城の維持管理体制の実態を明らかにし、全国統治体制の特徴を指摘したい。

徳川大坂城の普請と大坂町人

大澤（おおさわ） 研一（けんいち）（大阪歴史博物館館長）

富裕層・開発町人層を含む大坂町人（初期町人）が、各大名の担当普請を支えた実態（石垣石の調達や輸送、土地提供、蔵米販売、幕府役人との仲介など）を紹介する。大坂城普請が町人たちの関与のもと実現したことを述べ、以後の町人たちに与えた影響を展望する。

奥村栄郷他二名連署状（安井家文書、大阪歴史博物館蔵）

第２部　ディスカッション　15時50分～16時40分

徳川大坂城の歴史的意義は何か。これからの研究の課題は？

第１部の登壇者がパネラーとなり、議論を深めます。

※第１部と第２部の間に休憩が入ります。

閉会あいさつ　16時40分～16時45分

本シンポジウムは、大阪市立大学戦略的研究・基盤研究（研究代表者：仁木宏）の一環として開催されるものです。